

桜から紫陽花へ、そして

岡崎 眸

平田先生に最初にお目にかかったのは、一昨年夏、最高気温の記録を記したその日でありました。平田先生は確か濃紺の仕事着（作務衣）姿でなにやら大きな荷物を持って、下の助手室に降りていらっしゃるところでした。背が高くてかつ姿勢が素晴らしい先生というのが初印象でありました。

それからまる2年間ご一緒いたしました。季節の変わり目にはいつも思い出す先生のお言葉があります。それは、「桜から紫陽花になると、あとは暑い夏とジェットの教育実習があるのみであります。」という修論の題目発表会での先生の開会のご挨拶の一部です。

桜も紫陽花もそれぞれに季節感のあふれる草木ですが、平田先生の言語によってその季節感は一層増すことになりました。桜が終わると、あ、次は何だろうと思い、紫陽花が咲くと、あ、次はもう暑さと「仕事」しか来ないと思わず独り言を自分の中で確認し、あ、これは平田先生がおっしゃっていらした言葉だなと思います。

この三月には先生の狂言の舞台を見る機会に恵まれました。きのこのお話で、家族で楽しむことができ、とても幸運に思いました。そして、先生の姿勢の素晴らしさの理由が納得できました。

先生があのだいご山荘事件のメインキャスターをなさった方であったことを知ったときはとても感動致しました。おかげさ言えば、何か歴史の生き証人を前にしたような気持ちになったのです。感動のあまり田舎の父に電話でその旨話したら、父もよく覚えており、そういう方とご一緒しているのかとこれまた感激しておりました。

この2年間お昼をご一緒する機会に恵まれ続けたこともとても嬉しいことでした。話はいつも盛り上がり、ご飯の時間よ永遠にという思いに至ったこともしばしばでありました。

平田先生、2年間たくさんの「幸せと感動」をありがとうございました。これからも周囲の人々に「幸せと感動」を与え続けて下さることをお願い申し上げます。